

県中教研 特別活動部会だより

第 36 号

発行日 令和3年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 小幡 幸治
題 字 金山 泰仁 先生

学級活動におけるICTの活用

指導主事 原田 尚計

GIGAスクール構想により、本年度から各学校に1人1台端末が整備されています。構想の早期実現に向けて、研究大会や学校訪問研修等においてもICTを効果的に活用した学級活動の授業が多く実践されました。

議題や提案理由、事前アンケート結果を分かりやすく提示する大型提示装置の活用は、生徒の課題意識を高めるために効果的でした。学校行事を振り返る場面で、動画を視聴することにより、生徒は活動を鮮明に想起し、課題を自分事として捉えることができていました。さらに、1人1台端末を活用して、各自が入力した意見を比べ合うことで、活発な話し合いにつながっていました。特に、発言することに苦手意識をもっている生徒が、話し合いに積極的に参加している姿が印象的でした。

ICTを活用する場面としては、学習を深めていく過程で、生徒が相互に情報を交換する、合意形成や意思決定をする、まとめたり説明したりする、振り返る、などが考えられます。その際、ICTを活用すること自体が目的となってしまうように気を付けてください。つまり、特別活動の特質である「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動における学習の充実を図るための有用な道具として、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的な利活用が重要になります。

これからも、特別活動において育成すべき資質能力の重要な視点である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」に向けて、ICTを積極的に活用していただくことを期待しています。

(西部教育事務所)

合意形成と意思決定とは何か

部長 小幡 幸治

今年度の研究主題は、昨年に引き続き「学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか」、副題を「生徒が主体的に参加し、合意形成や意思決定を目指す話し合い活動を通して」としました。その中でも、合意形成と意思決定に向かうための教師の関わり方が本年度のねらいでした。

第64回研究大会は、東部地区は滑川市立滑川中学校を、西部地区は射水市立射北中学校を会場として行われました。両会場ともに、事前指導がしっかり行われており、生徒が主体となって積極的な話し合い活動が行われました。そこには、アンケート結果を分析することで、生徒の実態に基づいた題材を設定したり、マンダラートを用いて、個人の考えがもてる状態で話し合いがスタートしたりするなど、様々な工夫がみられました。

一方課題としては、両会場ともに目指していた合意形成や意思決定には至らなかったという点が挙げられます。生徒の話し合い活動は活発に行われたものの、終末に向けての教師の働きかけやタイミングといった教師の関わり方において、まだ研究の余地が残された形となりました。

そこで次年度は、議題を掲げて合意形成を図る内容なのか、題材を設定して意思決定を目指す内容なのか、教師は、その特質とその違いを明確にし理解した上で話し合い活動に臨むように進めていきたいと考えます。

最後に、本年度はコロナ禍の中、両校とも万全な体制で研究授業を開催していただいたこと、そして慣れない環境にも関わらず、元気よく話し合いを繰り返し広げてくれた生徒にも感謝いたします。参加者全員から、生の授業を見せてもらったのは大変良かったという感想が寄せられました。来年度も、活発な話し合い活動が、多くの学校で実践されることを期待いたします。

(富・東部中)

第64回 富山県中学校教育課程研究大会

東部地区（滑川市立滑川中学校）

ネットルールづくりに向けての取組

【2学年】浜田 翔太 教諭

滑川中学校では、生徒会が中心となって「メディアルール滑中の巻」と題したネットルールづくりを全校で実施している。2学年では、「2-4全員の力を合わせ、『メディアルール滑中の巻』をみんなが実現できる形に作りあげよう」という議題で、生徒会執行部の原案に対する修正案を話し合った。

各班で考えた修正案に対する質疑応答では、「休日は4時間までと考えた理由はなぜか」「使用時間は寝る1時間前までとするとよいのではないか」など、活発な意見交換が行われた。

部会協議では、学習規律を確立することの重要性や、主体的な話し合いへの参加等について、協議がなされた。

草原和彦指導主事（東部教育事務所）からは、以下の助言をいただいた。

- ・特別活動は学級経営、学力向上の面で非常に重要である。
- ・本時の授業では生徒が根拠をもって意見を述べていた。思いつきではない根拠のある意見は説得力がある。普段から発表の仕方等の学習規律をつくり上げておくべきである。
- ・生徒が話し合うためには、課題の切実感が大切である。



【3学年】金森 淳史 教諭

3学年では、「『メディアルール滑中の巻』をみんなが実現できるようにするために意見、修正案を考えよう」という議題で、生徒会執行部の原案に対する修正案を学級で話し合った。

各班で考えた修正案に対する質疑応答では、「メディアの使用時間を10時までと決めてしまうと、ドラマや映画の途中で中断してしまうことになるかもしれない。最後まで観たいときにはどうするのか」「録画をすればよい」「すぐに観たい。納得できない」など、本音で意見を交わし合う姿がみられた。

部会協議では、学級における話し合いで意見を深め合うための方法や効果的な板書の形式等について話し合いが行われた。

有澤健指導主事（東部教育事務所）からは、以下の助言をいただいた。

- ・多数決を用いる場合には、「意見が出し尽くされている」「多数決で決めることを全員が承認している」「多数決で決めたことを協力して守ると合意されている」を事前に確認しておくことに留意が必要である。
- ・小学校における学びとの関連や教科等横断的な視点も重要である。



岡田 健亮（中・雄山中）

第64回 富山県中学校教育課程研究大会

西部地区（射水市立射北中学校）

議題「今後も充実した中学校生活を送るための目標を決めよう」

【2学年】 高田 武志 教諭



生徒による議事進行の下、前時までに各生徒が作成したマンガラートを活用して、班ごとに話し合い活動が行われた。

部会協議では、設定した目標をより具体的な活動目標に変えることについて、原田尚計指導主事（西部教育事務所）からは、以下の助言をいただいた。

- ・学級活動(1)は、自分もよくて、みんなもよいと思うことに折り合いをつけて合意形成をする集団討議である。合意形成では、自分と異なる意見や少数意見も尊重し、できるだけ多くの意見のよさを生かす方法を考えるようにする。安易に多数決で決定することなく折り合いを付けて、集団として意見をまとめていくことが大切である。
- ・振り返りを次に生かすことができるようにするために、反省だけにならないように、「前回と比べて、今回どういうことがよくできたか」「こういう点はよかったが、よりよくするためには、どのようなことに気を付けたらよいか」などの視点に基づき、振り返ることも大切である。

議題「受験に向けて学級でできる取組を決めよう」

【3学年】 豊島湧大朗 教諭

生徒たちがこれまでに経験してきた話し合い活動を生かし、生徒自身が自分たちで議題に対する考えを深めていく活動であった。

話し合いの中では、司会の生徒を中心に、どの生徒も自分たちの課題として積極的に意見を交わす姿が見られた。様々な意見が出てくる中で、意見が対立した場合でも、司会の生徒が柔軟に対応して、議事を進行していた。最後の合意形成では、一人3票を投票することでより一人一人の意思表示を明確にした多数決の方法でクラスとしての意見がまとめられた。



部会協議では、吉尾徹指導主事（西部教育事務所）より、以下の助言をいただいた。

- ・合意形成の段階をどう踏んでいくかに加えて、決定した内容について今後の学校生活でどう実践し、学級内でどのように評価をしていくのかといった視点や場面設定を大切にしていける必要がある。

山下 英俊（小・石動中）

各地区の取組

研修主題「学級活動を通して身に付けるべき資質・能力を育成するための指導はどうか」を解明するために

【黒部市の取組】

黒部市では、清明中学校倉谷教諭が第3学年で「情報モラルについて考えよう」という題材で授業を行った。

班ごとに、付箋とホワイトボードを用いてSNSの疑似体験を通して考える活動で、「会話をしない」「喋らず自分の色の付箋に書いてプリントに貼る」「1人5回以上付箋を貼る」の3つのルールを設定した。その上で、「体育大会の学年種目について」をテーマに、失敗した生徒のことで取り上げて自分の団が負けてしまったとする内容でスタートした。

生徒は付箋を活用し、手際よく意見をつながけながら言い回しを工夫し、活動を行っていた。

最後に別の班のグループワークを見て気付いたことや疑問をホワイトボードにまとめる活動を行った。



協議会では特定の生徒を傷つけないように、上手く話題を切り返したり、字面と本音のずれがよく表れていたりしていたことなど、わざと話を逸らすのも今の中学生の実態であり、現実感が出ていたことが話題になった。

また、生徒がグルーptークの怖さを自分たちで気付くきっかけとなり、他者にどのような影響を与えるかを考えられた生徒も多くいたのではないかなどという意見が出た。

黒川 忍 (黒・清明中)

【射水市の取組】

射水市では、研修主題を解明するために、授業実践、部員による意見交換等を行っている。今年

度は、コロナ対応として、授業動画の視聴、意見交換等を射水市の共有フォルダーを活用して行った。10月13日には、新湊中学校長岡教諭が、議題「合唱コンクールに向けた学級スローガンを考えよう」で授業実践を行った。タブレットを用いた個人作業と班での話し合い活動を展開した。生徒たちは意欲的に、タブレットを使ってKJ法を用いた話し合い活動に取り組んでいた。スタンディングの必要性やICTを効果的に活用する方法、生徒にとって切実感のある議題設定等について部員からの意見が出た。

牧野 巖 (射・小杉中)

【高岡市の取組】

高岡市では、研究主題に沿った授業実践や共同研究を行った。授業実践では、戸出中学校稲田教諭の指導案を基に、題材名「家庭学習の習慣を身に付けよう」の授業実践をICT機器や話し合い活動を取り入れて行った。共同研究では、11月9日の高岡市中学生「議論会」に生徒会代表が参加し、「論理コミュニケーション」の遠隔授業で学んだ経験・観察に基づいた事例から「未来の高岡について」の意見を発表した。この「議論会」では、生徒会活動での経験事例(成果や苦労)を基に意見を述べることで説得力をもつ内容になることを学んだ。今後、この手法を話し合い活動にも取り入れ、論理的に伝える力を育みたい。



福田 暁 (高・西部中)